



長尾和宏
(ながおかずひろ)

医療法人社団裕和会理事長、
長尾クリニック院長

1984年 東京医科大学卒業、大阪大学
第二内科入局

1001 年 医学博士（大阪大学） 橋本

1995年 兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業、現在に至る

日本慢性期医療協会理事、日本ホスピス
在宅ケア研究会理事、日本尊厳死協会副
理事長、全国在宅療養支援診療所連絡会
世話人、関西国際大学客員教授

[医学博士]

日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、指導医、日本在宅医学学会専門医、日本禁煙学会専門医、日本内科学会認定医、学術衛生コンサルタント

内科学会認定医、労働衛生コンサルタント

〔著書〕

『平穏死・10の条件』、『抗がん剤・10のやめどき』『糖尿病と膵臓がん』など多数。『痛くない死に方』と『痛い在宅医』は、映画化され、2020年夏公開予定。近著『小説 安楽死特区』も即重版! アマゾン1位

い人の致死率はインフルより低い。高齢者といつても元気な人から寝たきりの人まで様々だが、元気な高齢者は入院加療でいいだろう。しかし認知症の人はそもそも隔離病棟に入院できない人もいる。あるいは寢たきり・胃ろう栄養の要介護⁵の超高齢者を強制入院させる意義とは一体何だろう。

第1波が一旦落ち着けば、高齢者施設や在宅療養中のコロナ感染をどう扱うかを早急に議論すべきだ。PCR検査を拒否する人や入院などの強制隔離を拒否する人にどう対応すべきか、倫理的な配慮を含めて実践的なマニュアルを作るべきだ

「ステイホーム」が効きすぎて、自粛が解除されても2ヶ月以上、自宅に引きこもっている人が沢山いる。テレビのワイドショーが有名人のコロナ死を煽りすぎたため、恐怖が引き起こすストレス病の方がコロナよりも圧倒的に多い。彼らは恐怖から医療機関に行くことができない。現在、オンライン診療で対応している方は全員が微熱相談である。2ヶ月間自宅に閉じこもることはすさまじいストレスである。その結果、副腎からアドレナリンをはじめとするストレスホルモンが出る。交

2類外しでステイホーム 症候群を解消

感神経緊張状態が続くと微熱、うつ倦怠感、免疫能の低下（帯状疱疹など）身体機能や認知機能の低下などが起きる。まさに「ステイホーム症候群」である。

者が出ると、現在の法律とメディアでは、「発アウト！」なのである。コロナは2月1日に感染症法2類に指定された。2類とは他にSARSやMERSや結核がある。感染が確認されると保健所の指示で強制的に病院等に隔離される。しかし市中感染となつた現段階では2類指定が高齢者施設での検査や処置など現場の医師の柔軟な対応を阻止し、介護施設での監禁が続き2次被害を増幅している。ようやく5月28日の参議院の厚生労働委員会で「2類外し」が議論された。私は1日も早くインフルと同じ5類に落とすことを強く望む。

感染症法 2 類を 5 類に落とすべき

新型コロナは高齢者施設の問題だ

医学博士 長尾和宏

コロナよりも風評が怖い

セス号での集団感染で「新型コロナウイルス（コロナ）のPCR陽性者 の8割は無症状ないし軽症」と発表された。コロナ対策においてこの事実は極めて大きい。これを聞いた瞬間、「ああ、私は死なないな」と思つた。毎冬かかるインフルのようにたくさん的人が感染するが、暫くすると抗体ができて同じシーズンには再度と感染しない。同様にコロナも非高齢者を中心に日本人の7割が抗体を獲得する集団免疫で収束するのだろう。それまでは高齢者をコロナ感染で死なせない戦略が必要だと直感した。

ちなみに私はインフルのワクチン接種を1度も受けたことがない。もちろん職員たちには全員受けさせるが自分1人だけ打つていい。既に強い免疫力を得ていて、と勝手に思つていい。25年間も町医者をやっていると累計、何千人からのインフルウイルスに接している。1日に何人のインフル患者さんの咳や痰を浴びる。それでかかりそうになつても獲得免疫が阻止してい

るのだろう。毎年、インフルにかかるのは新入社員だけである。常にウイルスを浴びることを生業にしているためワクチンよりも自然な獲得免疫の方がずっと効果があると勝手に思つていて、フルにかかつたという話を聞かない。

そうした経緯があるのでコロナ怖くない。私が怖いのは自分が感染していることに気が付かず知らない患者さんやスタッフにバラまいてしまうことだ。そうなるとクラスター発生や集団感染というレッテルを貼られて新聞やテレビで事件のトピックスに報じられる。保健所が飛んできて2～4週間は外来も在宅も診療停止になり、濃厚接触者の足取りが調べられる。つまりもし私が感染すれば何千人、いや何万人に多大な迷惑をかけるてしまう。気が付けば風評でクリニックが潰れるかもしれない。実は開業医や介護施設関係者はそなへを一番恐れているのだ。

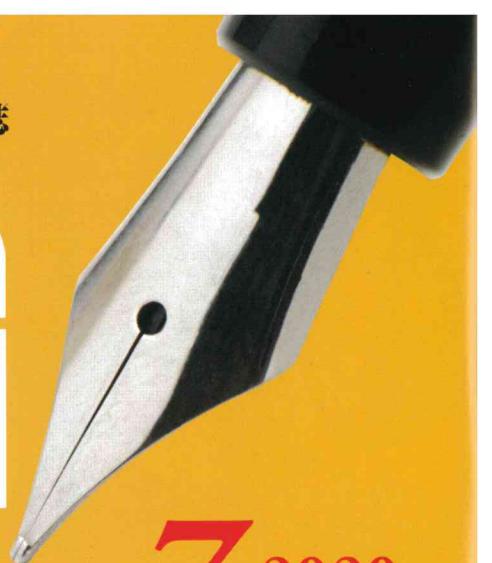
札幌「アカシアハイツ」の検証を

札幌市の社会福祉法人が運営する老人健康施設（老健）アカシアハーツにおける集団発生をご存じだらうか。入所者と職員の合計87名が施設内感染し、15名が亡くなられた。感染者を受け入れる病床がひとつ迫していたため保健所長が「施設で看取つて」という趣旨の指示をした、という。つまり感染が判明しても医療を受けられず家族に会えなまま亡くなった。スタッフはほとんど辞め残ったスタッフは自家用車に寝泊まりしながら頑張っているという。1日2食しか提供できず、まさに野戦病院の様相だ。ようやく国や北海道が支援に入ったが施設のHPを見ると夜勤の看護師を「一晩8万5000円で急募」と書かれている。

月刊

世界の視点で情報を発信する総合誌

人論



発行・株式会社財界通信社 令和2年7月1日発行 毎月1回1日発行 第53巻7号
昭和47年11月10日第三種郵便物認可

7 2020
July

提言

しっかりとした監査報告なしに
株主総会は成立しない
未来を見据えた議決をすべき

本誌主幹 大中吉一

リレー
対談

渋谷区長

長谷部 健氏 VS 佐藤康光氏

公益社団法人日本将棋連盟会長
九段



81マスに広がる無限の世界盤上に躍動する40の駒
限界も解明もまだない奇跡的ゲームとの出会いに深い感謝を



特集

我が国の国土強靭化と安全保障 どうする日本の危機管理

[主幹対談]

自由民主党 二階俊博幹事長に聞く

聞き手 本誌主幹 大中吉一

[特別寄稿]

国土交通省が支える国土強靭化対策と今後の展開

国土交通省総合政策局公共事業企画調整課長 森戸義貴氏

[インタビュー]

「先憂後楽」こそ基本

防衛省 防衛事務次官 高橋憲一氏

世界と共に生きる、よりスマートでより美しい日本

飛岡健の文明論視点からの未来展望は誤りか？

～パックスチーノは夢か幻か②～

金沢工業大学客員教授
(株)人間と科学の研究所 所長 飛岡 健氏